

カレィ



かれんと いんふおめ〜しょん

2006.4.1 発行：No.52
TEL 03-3985-2628
立教大学図書館

目次

「新座図書館」の新たな出発に寄せて	p1
新座図書館オープン！	p2～3
<読書ナビ>14回 現代思想を読むための10冊	p4

「新座図書館」の新たな出発に寄せて

図書館長 吉森 正人

新座キャンパス(旧称武蔵野新座キャンパス)には、2006年4月から、現代心理学部と大学院・現代心理学研究科が開設されました。さらに観光学部は観光学科に加えて交流文化学科が、またコミュニティ福祉学部は福祉学科とコミュニティ政策学科が新設されました。これに伴い、武蔵野

新座図書館も「新座図書館」に名称を変更し、増改築工事を終えて4月11日よりリニューアルオープンいたします。今号では、この「新座図書館」について特集します。

新座図書館は、従来の2階建てからワイドなワンフロアになり図書館内を広く見渡せる空間になりました。新たに設置した入館ゲートを通ると、開放感のある明るいエントランスホールが広がり、左手には木の優しさを生かした重厚なテーブルや書架が並び、落ち着いた雰囲気醸し出しています。また、右手にはモノトーンカラーで統一されたモダンな空間を配し、図書館全体として調和するよう設計されています。加えて、閲覧席や検索用パソコンを増やし、利用者の使いよさも向上しました。さらに、図書館から2階のPC教室へ行き来できるようになり、アクセスが便利になりました。また、本学としては初めて自動搬送書庫も設置しました。

図書館が所蔵する図書資料にも、映像関係など新たな分野の資料も加えられ、蔵書も今後さらに充実させていく計画です。新座キャンパスと池袋キャンパスの間には図書資料取り寄せサービスもあります。ぜひこの新しく



なった新座図書館を今まで以上に積極的に活用してください。

「読書ナビ」のコーナーでは、現代心理学部開設を記念し、現代心理学部の分野と深い関わりのある現代思想を学ぶための資料をご紹介します。立教の新たな学問の一端に触れてみてください。

なお、2006年度池袋キャンパスには経営学部が新設されました。この経営学部に関する図書資料についても次号以降の読書ナビでご紹介します。

新座図書館オープン！

昨年度からの増改修工事を終えて、4月11日から名称も新たに「新座図書館」がリニューアルオープンします。これまでの観光・福祉関連中心の資料に、心理・映像身体関連の資料が加わります。2月4日に閉室した旧人文科学系図書館心理学科分室所蔵の資料は、順次、新座図書館の資料として池袋キャンパスから移管されます。（新座図書館への移管は2007年3月完了予定です。）

工事中に入館を制限させていただいた、卒業生、新座市民（新座市に在住または在勤の満20才以上の方のみ）の方々の利用も再開いたします。

また、池袋キャンパスの本館、各学系図書館（人文科学系、社会科学系、自然科学系図書館）と同様、入館ゲートを設置します。入館の際には学生証、勤務員証または図書館利用証（池袋本館、新座図書館で発行）が必要になりますのでご注意ください。



以下、新座図書館の特色についてご紹介いたします。（新座図書館案内図を参照してください）

これまでの1階・2階のフロアから、1階のみの広いフロアとなりました。総面積は2,966㎡になります。開放的な閲覧スペースには約140席が増えて382の閲覧席が設けられています。一部の閲覧席を除いてはLANの使用が可能です。館内では蔵書約123,000冊、雑誌約600タイトルを利用することができます。池袋キャンパスや新座保存書庫の資料は、これまで通り現物や複写物を取り寄せることができます。（雑誌等、一部取り寄せられない資料もあります。）

入口の入館ゲートを通るとすぐ、両サイドに天井高く、モダンな書架スペースが広がっています。正面突き当りが閲覧カウンターです。新設された自動搬送書庫内の資料の利用や、池袋キャンパスの資料の取り寄せ、AVブースの利用等のお申込みや質問などはこちらにどうぞ。



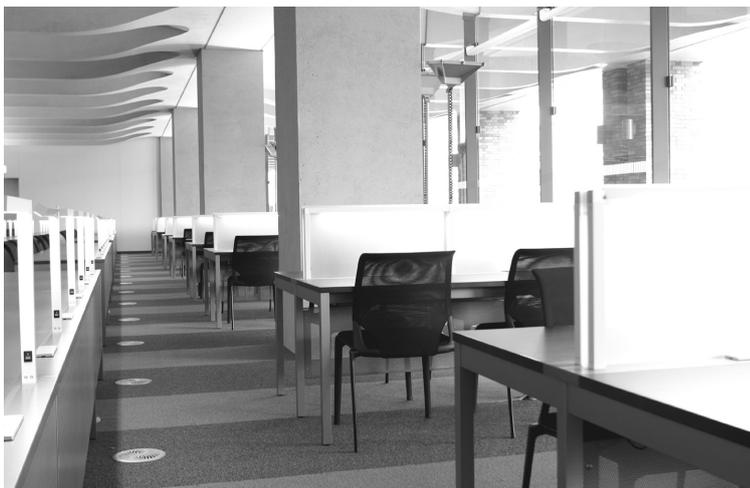
閲覧カウンター向かって右側には検索コーナーがあります（左の写真で階段右）。こちらには情報検索用パソコン18台とOPAC端末が6台設置されています。更に奥にはAVブース（25台）とコピーコーナー（コピー機2台、マイクロフィルムリーダープリンタ1台）があります。

閲覧カウンターに向かって左側は雑誌コーナーです。新着雑誌の他に、ガイドブックや立教

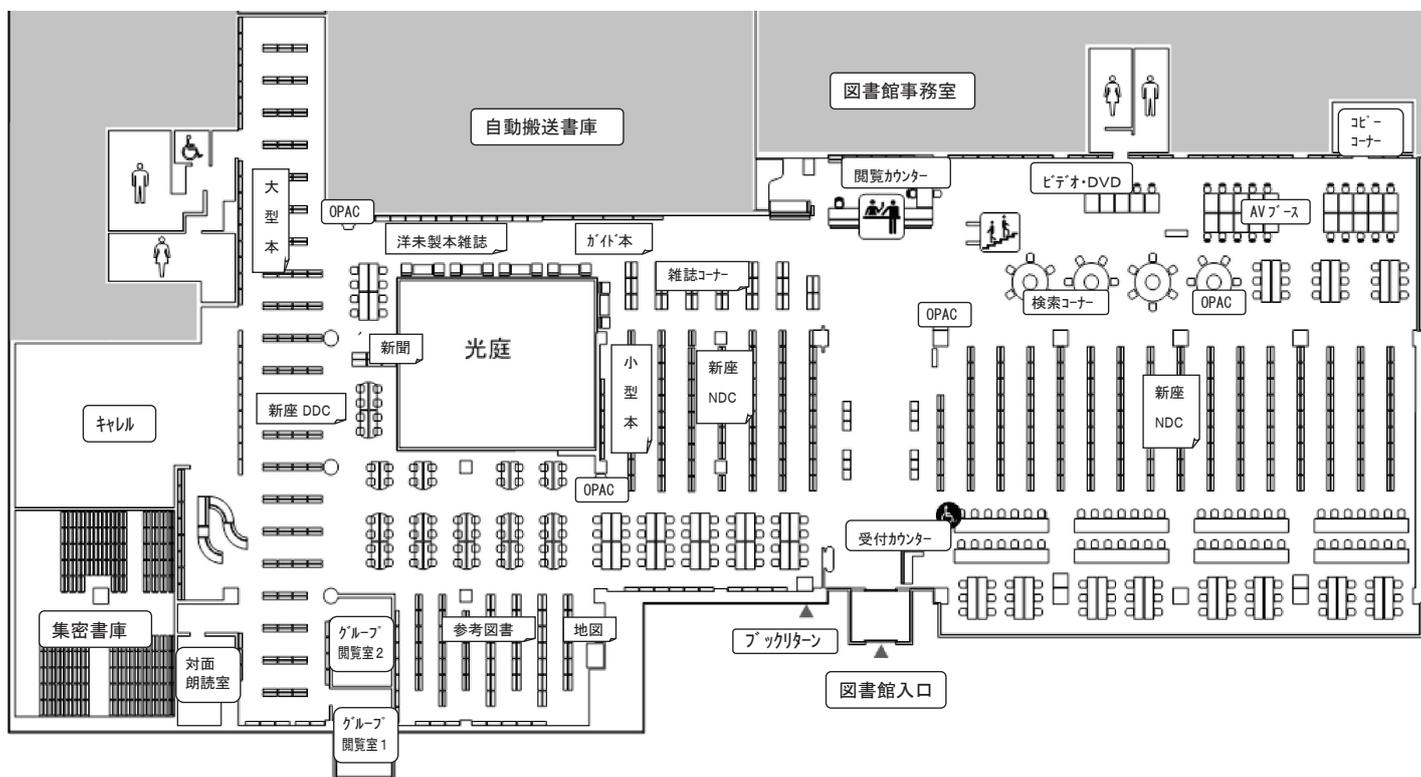
関連の資料、未製本の洋雑誌が明るい光庭の周囲に並んでいます。こちらには光庭を囲むようにソファを設置してありますので、くつろいで資料を閲覧いただけます。光庭に沿って奥には新聞コーナーがあります。更に左奥のスペースには個人用キャレルが49席あり、落ち着いた雰囲気での学習スペースになっています。また、主に製本雑誌や紀要を収容する集密書庫、対面朗読室、グループ閲覧室が2室あります。閲覧カウンターで申込むことをご利用できます。

なお、閲覧カウンターに向かって右横の内部階段からは2階のPC教室へのアクセスが可能です。図書館入口の左にはブックリターンがありますので、図書館閉館時にはこちらに図書を返却できます。AV資料はブックリターンには入れず、開館時に閲覧カウンターに返却してください。

4月に生まれかわった新座図書館をぜひ活用して、授業やゼミなどの学習に役立ててください。



新座図書館案内図



「現代思想」といってもじつに広大で、定義することが難しいのだが、それはやはり哲学にかかわり、とりわけ二十世紀のヨーロッパで書かれた書物から広がっていった思想のウェーブのことをさすといえる。この四月に本学「現代心理学部」に開設される「映像身体学科」はこの「現代思想」の動きと深い関係をもつ。「現代思想」の重要なトピックがまさに「映像」と「身体」であったからだ。

1) その意味でまずヴァルター・ベンヤミンの「複製技術時代の芸術」を中心とする一連の評論（『ベンヤミン・コレクションⅠ』ちくま学芸文庫）は重要である。彼はナチズムが出現した時代に映像を初めとする新しいテクノロジーが、身体のあり方をいちじるしく変容させることをいち早く察知して、映像-政治-身体を結ぶ鎖を解明したのである。

2) ほぼ同じ時代に演劇人として、演劇の革命を構想したアントナン・アルトーの『演劇とその分身』（白水社）は演劇論を超えてあたらしい身体哲学を提出した本である。

3) 「現代思想」の大きなテーマとして精神分析が明るみに出した「無意識」がある。フロイトの論文の中でも最も驚くべき問題提起をした「快感原則の彼岸」（『自我論集』ちくま学芸文庫）は忘れがたい。

4) ハイデガーは二十世紀思想の一つの起爆剤となる『存在と時間』を著したが、これにいきなり挑戦するのは少し無謀といえる。『形而上学入門』（平凡社ライブラリー）のような本は比較的平明でハイデガーの思考のスタイルに触れることができる。

5) 二十世紀以前を知らずに、二十世紀を理解する事は出来ないが、たとえばジル・ドゥルーズ『スピノザ』（平凡社ライブラリー）、同じ著者の『ニーチェ』（ちくま学芸文庫）は、実にコンパクトに、身体哲学の先駆者といつてよい二人の肖像を描ききっている。

6) ドゥルーズとガタリの二人によって書かれた『千のプラトー』（河出書房新社）は生命、身体、言語、戦争、国家、テクノロジーなど多岐にわたる問題を扱った大著である。そこでは従来の学や知の領域が破られ、思考されることのなかった存在や素材が噴出し、きらめいている。

7) フーコーの代表的な書物を読むには、かなり知的体力を要する。『ミシェル・フーコー思考集成』1～10（筑摩書房）の中のエッセイのいくつかを集中的に拾い読みするのも一つの入り口になる。フーコーは、歴史学と哲学のはざまに隠されていた問題の地層を明るみに出したという点で、最高に重要で、かつユニークである。

8) 李静和『つぶやきの政治思想』（青土社）。小さな本だが、大きな問題のデリケートな交点が、韓国の書き手によって斬新な日本語で照らし出された。「現代思想」の問題はこう言う「つぶやき」のなかにも先鋭に表現されている。

9) 本学の全カリ講義から生まれた『マイノリティは創造する』（せりか書房）は、「現代思想」が、世界を大風呂敷に包み込む思想ではなく、微細な見えない生の分子的様態に耳目をむける試みであることを照らし出す。

10) ナチの時代にドイツからアメリカに亡命したハンナ・アレントの重要性は、二十世紀末にうかびあがる。彼女はヨーロッパの政治的思考の盲点を鮮明に抉り出した。『革命について』（ちくま学芸文庫）を読まなくてはならない。

※文中に紹介されている資料はすべて立教大学図書館で所蔵しています。

開館日程等については図書館のホームページでご案内しております。

(<http://opac.rikkyo.ac.jp>)

※その他変更がある場合はその都度、掲示でお知らせします。